

另外，这次去南京我也感受到了一种使命感。我不仅希望能有很多的中国人认识戏剧疗法或艺术表现疗法，也希望能给和平教育带来一点新的形式和启发，为此我们还有很多必须做的事情。

热切期望和各位在南京再相会！

9

南京のワークショップを終えた感想

城尾聡子（立命館大学応用人間科学研究科）

南京の6日間を振り返って、南京に行くことができて良かったと感じている。実際に南京師範大学の学生と戦争のことや、実際彼らが体験してきた家族の悲しみ。日本兵に対する憎しみ、怒りといったものも感情で分かち合うことができた。それは世界中のほかの国のどこでもない「南京」という土地に行ったからこそ自らも心で感じることができたのだと思う。

私は、このワークショップに参加する前に、日本で南京大虐殺に関する本を読む勉強会に参加したり、村本先生の講義を聞いたり、アルマンド先生のワークショップに参加したりして、ひとつひとつの階段を上っていくように理解を深めてきた。私は、ドラマセラピーが異なる言語を話す集団の中で今回行われたことに非常に有効性を感じている。中国の学生が真摯に我々に向き合って悲しく残酷な過去の記憶を日本の学生に話してくれ、日中の次の世代の真の平和を願うと話す姿に心を打たれた。また自分の心の表現をドラマや彫刻や粘土で表現することで言語を超えた心の分かち合いができたと感じている。

さらに、平和というものがいかに脆弱なものであるかということ、今回のセミナーを通して感じた。日本人と中国人は顔も体つきも何ら大差はない。しかし、戦争というものはとても簡単に人間を鬼に変えてしまうのである。現在の日本は平和であり、自分が生まれたときから平和はそこにあたりまえにあるものであった。しかし、平和を心から希求して平和のありがたさを心から話してくれた生存者の話を聞いた後、平和とはただあるものではなく、我々がしっ

かりと守っていくべきものであるということを強く感じた。日本に帰国した後、私は南京で体験したこと感じたことを多くの人に話した。多くの人が私から幸存者の方の話を聞いて涙を流した。自分が心で感じたからこそ、他の人にも心で伝えることができたのだということを感じた。

今回のセミナーは皆が安全な場所という安心感を持って、戦争の悲しみ、怒り、憎しみ、希望などを心のレベルで感じることができた。私にとって中国の方々との対話はとても温かい感覚として残っている。この感覚を私は一生忘れないであろう。

最後にこのセミナーを企画してくださった先生方、私たちを温かく見守ってくださった中国人の皆様にご感謝いたします。

回顾南京之行

城尾 聡子（立命館大学応用人間科学研究科）

从南京回来已经有5天。这次访问南京感受到的东西已经稍微整理好，因此今天写一下回顾。

南京回来的路上，在南京大屠杀纪念馆看到的照片一直在我脑中挥之不去，所以我很害怕会不会一直受这些记忆的折磨。但是回到日本之后发现，南京之行令我日本曾是加害国的历史感到愤怒，也令我意识到了和平教育的重要性。对此，我既感谢又感觉到一种使命感。那种与其说是愤怒还不如说是恐惧的心情，便开始随之消失。换句话说，就好像是在投掷和平的信息一样，有一种非常不可思议的感受。

在我至今参加过的 wound of history 的工作坊中，这次南京之行是我收获最大的一次。我认为有可能正是自己至今的经历才会感受到这些。同时，我也认为正是通过去南京前的预习工作和接受戏剧疗法，一步一步向前走才会有这样的收获。我认为用不同的语言做戏剧疗法是非常有效的。之前在日本接受戏剧疗法的时候我也有听中国留学生说，但无论是在日本还是美国，他们都不提和战争相关的事情。就像拿糖衣包着一般，根据对方的反应展开对话。在这样的氛围中进行的戏剧疗法里，我甚至有自己是第三方的感觉。另外，和朋友三天中，能和